

☆ツロとシドンの地方—非常に悪名高く、異教の神々を崇拝する町。(エゼキエル28章、イザヤ23章など) ☆カナン人—異教の神々を崇拝し、墮落した生活をする人々。(出エジプト23:23-33など) ☆女性—社会的に低く評価されていた。

* 「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです」(15:22)とイエスに叫び続けたのは、ツロとシドンの地方にいたカナン人の女でした。「ダビデの子」というのは、メシアの称号です(Ⅱサムエル7:12-13、イザヤ9:7など)。彼女は信仰をもってイエスに願ったのです。

* イエスは弟子たちの願いの通り、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外のところには遣わされていません」(15:24)と言って、彼女の願いを拒絶されました。イエスの働きは、第一にイスラエルの民のためであったのです(マタイ10:5-6)

* 拒絶されても、ひれ伏して助けを乞う彼女に対してイエスは「子どもたちのパンを取り上げて、子犬に投げてやるのはよくないことです」

(15:26)と言われました。「子どもたち」は、家の主人の恵みを第一に受ける存在(=イスラエルの家の失われた羊)です。「犬」は、通常は野生で、家の主人の恵みの外にいる存在(=異邦人)です。しかし「子犬」は番犬として用いられることがあり、家の主人の恵みを受ける可能性がある存在でした。ただしどちらも、当時の侮辱的な言葉であることに変わりはありません。

* 「主よ。そのとおりです。ただ、子犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます」(15:27)。彼女は侮辱的な言葉さえも受け入れ、知恵を働かせて答えました。彼女の謙遜な姿勢、忍耐して求め続ける姿勢、主の恵みが今の必要を十分に満たすという信仰に倣いたいと思います。

* 「そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。『ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように』すると、彼女の娘はその時から直った」(15:28)。彼女を退けるように願った弟子たちは、恥じ入り、あるいは驚愕し、何も言えなかったのではないのでしょうか。主は弟子たちの偏見を無くすために、彼女の「りっぱな信仰」をあきらかにされたのではないかと思います。主はカナン人の女も、弟子たちも、そして私たちのことも決して見捨てない方なのです。この方に信頼する者は決して失望させられることはありません。(ローマ10:11-13 参照)